2018학년도 중등학교교사 임용후보자 선정경쟁시험

일 본 어

수험 번호 : (　　)　　**성　명 : (　　)**

제1차 시험	2교시 전공A	14문항 40점	시험 시간 90분

○ 문제지 전체 면수가 맞는지 확인하시오.
○ 모든 문항에는 배점이 표시되어 있습니다.

※ 答えはすべて日本語で書くこと。

1. <A>は、2015改定教育課程による第2外国語科教育課程(教育部告示第2015-74号)の日本語Ⅰ科目の「内容体系」の一部である。<B>の下線部を参考に、ⓐ、ⓑに当てはまることばを順番に書きなさい。[2点]

<A>

領域	核心要素	内容	機能
言語的内容	発音及び文字	• ひらがなとカタカナ、漢字 • 清・濁音、長・短音、拗音、促音、拍、イントネーション …(中略)…	• 聴く • 聴いて理解する • 聴いて反応する • 話す • 表現する • 状況に応じて話す • 仮名と漢字を読む …(後略)…
	語彙	• ことばの基本意味と(　ⓐ　)意味 • ことばの結合関係 • (　ⓑ　)表現 • 漢字の音読み・訓読み …(中略)…	
	文法	• 現代日本語文法 …(後略)…	

<B>

○ あした、何か予定ありますか。天気だったら、いっしょに花見にでも行こうかと思って。
○ その作家は、若者の心をつかんだ作品を引き続き発表し、一気にベストセラー作家になった。
○ 子供をスキーに連れていったが、なかなかうまくならないので、骨が折れた。
○ 道草を食わなければ、今ごろおいしいお寿司を食べていたはずなのに。

2. 次のオ列長音の表記に関する文章を読み、下線部に該当する体言と用言の例を、<条件>に従って1つずつ書きなさい。[2点]

日本語の現代仮名遣い[1986年7月1日内閣告示]の原則は、語を現代語の音韻に従って書き表すことである。「オ列の長音」は、「わこうど(若人)」、「ほうる(放る)」のように、オ列のひらがなに「う」を添えることを原則とする。しかし、表記の習慣による特例で、「う」ではなく、別の仮名を添えて書く場合がある。これらの例は、歴史的仮名遣いでオ列の仮名に「ほ」か「を」が続くものであるという特徴がある。

<条件>

○ 日本語の辞書の見出しとして載っている語に限る。
○ 人名、地名、外来語、方言は除くこと。
○ 「流れ」、「近く」のような転成名詞は含まないこと。
○ ひらがなで書くこと。

3. 次の文章の下線部の中から意味が異なるものを1つ選んで書き、その文法的意味を書きなさい。[2点]

現代日本語の中には、現代語の文法知識だけでは理解できない表現がある。たとえば、書名の『眠れる森の美女』、『怒れる若者達』に現れている「眠れる」、「怒れる」は、それぞれ「眠ることができる」、「怒ることができる」の意味ではなく、「眠っている」、「怒っている」という意味になる。これは、「眠れる」、「怒れる」の「る」が、文語文法における完了(存続)の助動詞「り」の名詞修飾形であることに起因する。

このように、文語的表現は、歌や映画のタイトル、記事などの見出し、キャッチ・コピーなどにも散見される。また、「我関せずの態度」、「言わんとしている」、「起こりかねぬ事態」、「起こさねばならぬ」などの表現にも見られる。

4. 次の㉠、㉡に当てはまることばを順番に書きなさい。[2点]

○ <郵便局で>
職員：お客様、その件は、となりの窓口でお伺いになってください。
客　：どうも。

下線部は、敬語として正しくない表現である。なぜなら、「お～になる」という敬語形式の中に、(　㉠　)である「伺う」は入ることができないからである。正しい待遇表現にするためには、「お(　㉡　)になってください」に直さなければならない。

5. 次の<A>の中から、下線部の「タ形」がムードの用法で使われた文を選んでその番号を書きなさい。また、そのムードの具体的な意味を書きなさい。[2点]

<A>

(1) かわいい娘の結婚は父親をとても悲しませた。
(2) ほら、そこ危ない! どいた、どいた。
(3) 花子は大事にしているカメラをなくしてしまった。
(4) 本人がどうしてもやりたいと言うので、やらせることにした。

6. 次の(　　)に共通して入ることばを書きなさい。[2点]

○ 2015改定教育課程による第2外国語科教育課程(教育部告示第2015-74号)の日本語Ⅰ科目の「評価の方向」では、「学習(　　)を活性化し、学習過程についての記録を残し、自己評価資料として活用する」と示している。
○ (　　)は長期にわたる学習において、その学習の目的に沿って学生個人が行った努力の過程を示すもので、発表やプレゼンテーションという実技の場だけでは現れないそれまでの努力を記すものである。
○ (　　)評価の一番の長所は、学習者自身が評価に深く関わることで、その際、評価の視点や内容を学習者と教師が共有することも大事である。
○ (　　)の目的としては、資料を基に学習者自身が内省し、自己評価を行うことでメタ認知能力を育成し、自律学習を促進することがあげられる。

7. 次の(　　)に共通して入ることばを書きなさい。[2点]

「話す」という行為には、スピーチ、プレゼンテーション、講演のような一方向で行うものと、会話のような双方向のものがある。両者に共通して、日本人は適切な語彙が浮かばない場合、(　　)を使って時間を稼いだり、別の言葉で言い換えたりする。特に、会話の途中で、何も言わないと話が終わったと思われ、他の人に割り込まれ、伝えたいことが伝えられなくなることもあるので、「えー」、「あのう」、「ああ」などの言葉を発して、ターン(発話順序)を確保したりする。このような言いよどみのことを(　　)と呼び、これは狭義の「談話標識」の一つと言える。

また、日本語での「話す」という行為においては「書く」という行為と異なり、同時性が必要であり、頭の中で展開を考える時間は少ない。談話展開におけるストラテジーの一つとして、(　　)の使い方を指導することは、日本語教育の立場から見ても意義のあることである。

8. 次の文章は文学作品に関する説明である。(1)～(4)を成立年代の早い順に並べかえなさい。また、(　　)に当てはまる古典文学のジャンルの名称を漢字で書きなさい。[2点]

(1) 世俗説話700余話を30編に分類した説話集で、編者は橘成季である。勅撰集にならった構成で、多くの資料から史実を引用している。詩歌管絃の優れた話を多く取り上げるなど、王朝文化へのあこがれが強い。

(2) 中国の『剪燈新話』をはじめとする怪奇小説を翻案した作品で、作者は浅井了意である。その中の「牡丹灯籠」の話は怪異談の白眉と言われる。ジャンルとしては(　　)にあたる。

(3) 権中納言と寝覚上が悲劇的運命の果てに結ばれるという恋物語である。登場人物の心理描写に優れ、構想も変化に富み、人生の哀愁が漂う作品として高く評価される。

(4) 後深草院に愛された二条が過去を回想して綴った自伝的な作品である。愛の遍歴と、出家して悟りを求める内容で、日記・紀行・物語の要素をあわせ持っている。

9. <A>はイントネーションに関する文章で、<B>は表現意図の例である。ⓐに当てはまることばを書きなさい。また、ⓑに当てはまる表現意図の例を<B>の中から2つ選んで書きなさい。さらに、その2つのうちの1つを取り上げ、<条件>に従って答えなさい。[4点]

<A>

イントネーションとは、文あるいは句のレベルで、超分節的に意味を付与する(　ⓐ　)の変動である。狭義には、話者の表現意図に関係する文末(句末)における変化を指す。

文の意味を決める上で重要な役割を果たす文末イントネーションは、研究者によって諸説様々であるが、一般的には、平調と上昇調と下降調の三つに分けられる。実際の現象としては文全体の変化が絡むなど複雑であるが、平調は中立的な発話に用いられる。上昇調は「質問」や「誘い」などの表現意図を表すのに使われ、下降調は(　ⓑ　)などを表すときに使われる。まとめて言うと、上昇調は話し手の働きかけや期待が聞き手に向けられている場合が多く、下降調は話し手自身の感情や認識を表す場合が多いと言える。

<B>

疑問　　納得　　落胆　　確認要求

<条件>

○ まず、表現意図を書き、その意図が伝わるように、明確に設定した場面状況を書いた後、例文を作ること。

10. 次の文章を読み、(1)～(4)を、最も自然な文章になるように並べかえ、番号で書きなさい。また、「たとえば」を文頭に入れられる文を1つ選び、その番号を書きなさい。なお、主旨が分かるよう、文章のタイトルを書きなさい。[4点]

論理力向上のために大切なのは、さまざまな接続表現に注意することである。

(1) その前後で議論が方向転換している可能性が高い。
(2)「しかし」という接続詞は多くの場合「転換」を示している。
(3) 論理とは言葉と言葉の関係にほかならないが、それを明示するのが接続表現だからである。
(4) 議論の方向を見失わないためには、「しかし」という接続詞に注意することが必要となるのである。

ただし、ときに接続表現は省略されるので、その場合には自分でそれを補って読まなければならない。

野矢茂樹『論理トレーニング101題』より改変

11. 次の文章を読み、ⓐ、ⓑに当てはまることばを<条件>に従って順番に書きなさい。また、下線部ⓒについて<条件>に従って説明しなさい。[4点]

漢字は元来中国で作られ発達した文字であるが、日本では固有の文字が誕生する前からこれをもって日本語を表記するようになった。日本の漢字には様々な読み方があり、漢字の中国語音に基づく日本語音での読み方を「音」(または、字音・音読み)、漢字の義に対応する日本語による読み方を「訓」(または、字訓・訓読み)という。また、古くから中国から伝えられた語を、和語に対して(　ⓐ　)といい、中国の漢字音に従って読むという特徴から字音語ともよばれる。これには日本で作られたものも多く、(　ⓐ　)が一般に広く用いられるのに伴い、もともと訓読みをした語の表記を音読みにすることが生じた。例えば、「かへりごと→返事、ものさはがし→物騒」などは、日本で独自に当てた漢字表記を音読した(　ⓑ　)にあたる。(　ⓑ　)は、古くはその構成や読みに音と訓とを合わせた、ⓒ「湯桶読み」や「重箱読み」のものもあり一種の「混種語」の様相を呈することもあったが、近代以降、外国語の概念に対応するための翻訳語としての地位を確保するにいたった。

<条件>

○ ⓐは漢字2文字で書くこと。
○ ⓑは漢字4文字で書くこと。
○ ⓒは必ず「混種語」の定義に基づいて説明すること。

12. 次の<A>の下線部と文法的性質が同じものを<B>のⓐ～ⓔから3つ選んで書きなさい。また、その文法的性質について説明しなさい。[4点]

<A>

先生の説明を聞いてようやく分かってきました。

<B>

○ 田舎の叔母が柿をⓐ送ってきました。
○ 最近、父の気力が少しずつⓑ衰えてきました。
○ こどもが泣きながら母親のところにⓒ走ってきました。
○ 私の知り合いの中でも、フリーターがⓓ増えてきました。
○ 晴れていた空が突然ⓔ曇ってきました。

13. 次の文章は『万葉集』に関する説明である。ⓐに当てはまる人物名を漢字で書きなさい。また、ⓑ、ⓒに当てはまることばを漢字で書き、その内容についてそれぞれ説明しなさい。[4点]

『万葉集』は現存する日本最古の歌集で、約4,500首の歌を載せる。作者は天皇、皇族から一般庶民、遊女に及ぶが、作者未詳の歌が半数を越える。巻ごとに成立時期は異なるが、最終的に『万葉集』20巻の全体をまとめた編者は(ⓐ)と推定される。

部立は「雑歌」、「(ⓑ)」、「(ⓒ)」の三種が中心となっており、その他、四季に分けたり、「譬喩」・「羇旅」・「問答」のように分けて編集してある。この部立は『古今和歌集』をはじめ、後世の勅撰和歌集の手本となる。

14. 次のⓐに当てはまる「まつり」の名称を漢字で書き、その「まつり」の起源について現在の開催月を含めて説明しなさい。また、ⓑに当てはまる人物名を書きなさい。[4点]

元来「まつり」とは神と人間とのつながりを深めるための宗教的な儀式から生まれた。すなわち、神の御霊を慰めたり、あらゆる願い事を祈願し、その成就に感謝したりする目的で行われるのがまつりなのである。今もまつりは全国各地で一年を通して行われており、まさに日本はまつりの国と言える。

中でも歴史と伝統、規模において日本三大祭と呼ばれるのが、東京の神田祭、大阪の天神祭、そして京都の(ⓐ)である。人によっては神田祭の代わりに三社祭を入れる場合もあり、天神祭を天満祭と呼ぶ場合もある。神田祭の始まりは徳川家康の関ヶ原合戦での勝利を記念したことがきっかけであり、天神祭は学問の神様である(ⓑ)を祭る大阪天満宮が鎮座する際の儀式が始まりである。

最近、まつりは神と人間の疎通という本来の目的から離れて、観光産業や村おこしの手段としてイベント化する傾向にある。しかし、まつりは今もなお日本人の心の憩いの場であり、共同体の統合や一体感の形成などに欠かせないものである。

<수고하셨습니다.>